2008～2009年度
国際ロータリーのテーマ
李　東建

Make Dreams Real
夢をかたちに

会長／齋藤清藏　　幹事／遠藤光一

RI第2510地区
留萌ロータリークラブ
会　報
2008►2009　WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ
出席と参加、親睦と奉仕の意識を高め地域に奉仕

プログラム

●本日
来賓卓話
留萌支庁長　西田　俊夫 様

ご夫人誕生日
1月29日　鈴木　正枝

●次週予定
来賓卓話「財政危機を乗り越える」
留萌市長　高橋　定敏 様

No. 2360
第28回　1月28日

出席報告

前例会
会員総数……43名
出免会員……4名
出免出席……1名
出席会員……28名
出席率……70.00%

前々会　第25回　1月7日
出席会員……35名
メイクアップ……0名
修正出席率……80.00%

例会／毎週水曜　12:15～13:15　留萌産業会館2F

会長報告

○　今年度の国際大会は英国バーミンガムにて開催される、第100回を記念する大会です。その為に日本からは2000名の登録参加を計画しております。日程は2009年6月21日～24日まで、英国バーミンガム市にて開催され、登録料は3月31日までは330ドル、その後380ドルです。参加される方は早めの登録が良いようです。

○　国際ロータリー第2510地区・2011～2012年度ガバナーノミニーについて、地区ガバナー指名委員会は小樽ロータリークラブ所属、熊澤隆樹会員をガバナーノミニー候補者として選出旨、報告がございました。締切日の2008年12月1日までに熊澤隆樹会員以外、どのクラブからも推薦がございませんでしたので、地区ガバナー指名委員会が選出した小樽ロータリークラブ所属熊澤隆樹会員が2011～2012年度ガナバー・ノミニーとなりました。どうぞよろしくお願いします。

幹事報告

1）ロータリー米山記念奨学会寄付金納入明細書及びロータリー財団クラブ別寄付金明細書2008年11月30日現在を受領しました。

会報受領先
・砂川ＲＣ　　№1897号～№1900号

ゲスト
北海道議会議員　　石塚　正寛様

委員会報告

国際奉仕委員会　　**行徳委員長**

１月は円高の恩恵でロータリーレートが有利になりましたので、本日「１クラブ・1000ドル目標」と地区から要請がありましたポリオ・プラスの募金を致したいと思います。

ポリオ・プラスとはポリオ（小児麻痺）撲滅を目的に始まった、総てのプログラムに優先されるロータリーの国際事業です。後にハシカ、ジフテリア、結核、破傷風、百日咳の５つの主要伝染病の追放も追加されたため、プラスと呼称されています。

金額は任意ですが、当委員会といたしましては、一人1000円位を見込んでおります。国際奉仕委員が皆様のテーブルを回りますので宜しくお願いします。

（皆様のご協力にて募金が31,816円となりました。昨年の財団特別寄付のレート差額26,400円と合わせて計58,212円を地区宛てに送金いたします。ありがとうございました。）

親睦委員会　　**中川副委員長**

本日例会終了後、階下の喫茶室にて委員会を開催いたします。議題は創立夜間例会の打ち合わせです。よろしくお願いします。

３分間情報

会員研修委員会　　**田中委員**

「ガバナー補佐の選考基準と合同開催のＩＭ」

ガバナー補佐の選考基準に、３年以上の会員で会長経験があり、地区委員としての活動歴が必要とあります。留萌ロータリークラブではごく普通と思っていても、地区委員を経験してみると留萌クラブの良さがよく理解できます。ＩＭはＩＣＧＦからＩＧＦになり現在の名称に変わりました。

ガバナー補佐も分区代理と呼ばれていた頃は、第一グループと第二グループの９クラブが第一分区でした。今年度のガバナー月信でＩＭの開催が単独か合同かを調べて見ました。

合同開催は、第４・５グループ、第７・12グループ、第10・11グループで、単独は第１・２・３・６グループです。第８・９グループは月信には見あたりませんでした。月信１月号の会員数をクラブ数で割って見ました。留萌クラブが所属する第１グループが30名で一番少なく、第２グループが56名で一番多くなっております。合同開催の第４・５グループの札幌市内16クラブは48名で第２グループに次いで多い地区になります。第１グループは５クラブですが、ガバナー補佐を３クラブが交代で引き受けているのが、最近の傾向で今後も続きそうです。ガバナー補佐のお話があった時、一番最初に頭に浮かんだのが、ＩＭの事でした。もしも以前のように９クラブでの持ち回りに出来たなら、各クラブの負担も軽くなるのではと思いました。第１回のガバナー補佐会議があった時、第２グループの補佐に非公式に打診してみましたが、合同開催には乗り気ではありませんでした。グループの会員数をクラブ数で割った数字が、その答えかもしれません。第１グループ152名／５クラブ、第２グループ224名／４クラブ。

ニコニコBOX

- 会員の皆様のおかげで下期も順調に進んでいきそうです　プログラムでお世話になります　よろしくお願いします　　**齋藤会長**
- 写真撮影ご協力ありがとうございした　　**澤田会員**
- 先週の夜間例会多くの会員の御出席ありがとうございます　　**河部会員**

前　回	494,500円
今　回	8,000円
累　計	502,500円

プログラム

「道北地域へのドクターヘリ導入について」

北海道議会議員
石塚　正寛 様

本日、お招きいただき誠にありがとうございます。ロータリークラブの例会に呼ばれ卓話をするのは３度目だと思います。今回は今話題の地域医療に関係する問題で、道北地域へのドクターヘリ導入についてお話しをさせていただきます。

道内の医師数は平成18年12月現在で１万2307人です。人口10万人あたりで見た場合、平成12年に初めて全国平均を上回って以来、現在まで全国平均を若干上回っております。しかし、道内の医師数は約９割が都市部に集中しており、二次医療圏で見ると全道の医師の約半数が札幌医療圏がしめております。因みに、全国の医師数は全国平均が10万人当たり217.5人、全道では10万人当たり219.7人、留萌支庁では137.8人となっております。

21の地区に分けている二次医療圏のうち、全国平均を上回っているのは上川中部と、札幌、西胆振医療圏の３医療圏しかありません。因みに一次医療圏域、二次医療圏域、三次医療圏域と申しますと、数が多くなるほど高度で専門の医療サービスを提供できる地域単価で、北海道を６つに分け、道南、道央、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室を三次医療圏域とし、道北の三次医療圏域は５つの二次医療圏と分かれております。それは上川北部、上川中部、富良野、留萌、宗谷です。

現在道北の三次医療圏で、救急救命センターとしての指定病院は旭川赤十字病院だけで、旭川医大も救急救命センターとしての指定を受けておりません。因みに、道内は10ヶ所が指定されています。この生死を争う重篤患者を扱う救急救命センター病院への距離は、直線距離で、旭川～稚内191km、旭川～紋別102km、旭川～留萌61km、旭川～幌延144kmあります。救急救命の場合30分以内の処置が大切と言われており、ドクターヘリの運行距離は120km程度です。

このドクターヘリとは、医師・看護師が搭乗する、医療機器搭載のヘリコプターで、重篤患者を短時間で搬送し、ヘリ内で救命医療を行なう（救急外来と同じ）ヘリコプターです。現状では札幌市の防災ヘリがドクターヘリとして運行されていましたが、道・海保・自衛隊・警察の防災ヘリはドクターヘリではありません。

ドクターヘリの導入経過を申しますと、現在全国にドクターヘリは14機配備されており、北海道には手稲渓仁会病院に１機（05年運行）配備されています。07年３月には「釧路圏ドクターヘリ研究会」結成。08年８月には「旭川圏ドクターヘリ研究会」が結成されています。道北55市町村が対象です。国として来年度は８機増の予算要求が決定しており、これに向けて北海道議会でも議論がなされました。道は財政上の理由からとりあえず１機としていましたが、自民党政策審議委員会では旭川と釧路の対立は避けるべきとの事で、２機導入を要求すべきとの意見に決定しました。知事も昨年の９月議会は明言を避けましたが、今回の予算委員会では知事の最終判断で前向きな答弁を頂きました。個人的には非常に嬉しかったのですが、これからのの課題が山積している事も事実です。

導入するに当たっての課題は、まずヘリコプターの格納庫などの施設整備費に１億円以上必要との話があり、当面は愛別飛行場を使用すると思いますが、運行費とその負担が最も大きな課題となります。運行費用の概算では１億９千万円かかり、国・道からの交付金は合計１億６千万円で、差額３千万円をどう捻出するかが、問題だと思います。基本的には関係自治体からの受益者負担（50万～60万円程度）。釧路圏ドク

ターヘリ研究会では既に話し合われて負担金が決まっているみたいですが、旭川圏ではこの話し合いが大変だと思います。

導入後の体制ではヘリコプターの管理運行体制として、８時30分から17時まで日赤屋上で待機（格納庫で保管、旭川医大からその場所の提供の申し入れあり）、そして医師･看護師の準備体制は旭川日赤病院・旭川医大・旭川厚生病院が連携しやりくりする。自治体・各消防署との連携では要請の基準作り、役割分担などを考えなければなりません。基本的には16の消防機関からの要請で出動しますが、基準例として自動車事故では50㎝以上つぶれているとか、同乗者が死亡などの要請基準作りもしなければなりません。

手稲渓仁会病院のドクターヘリの実態をお話すると、2006年度実績では389回の出動（要請は496回）、未出動107回（天候不良50回、同時要請33件＝増加中）、留萌管内への運行は14回（その内キャンセル５回）で、389回の出動でもキャンセル56回あります。

留萌にとってドクターヘリとは、重篤患者への対応で、脳外科・産婦人科の常勤医師不在が大きい（年間1300件の救急搬送）。札幌・旭川の２ヶ所の基地病院を持つことは留萌には大きなメリットになります。運行中による要請の回避が減ることになります。渓仁会での実績では要請から離陸まで３分41秒、離陸から現場到着まで平均で14分47秒だそうです。留萌地域を考えますと、ぜひ旭川にもドクターヘリが導入されるべきと考えます。

以上時間となりましたのでドクターヘリ導入についてのお話しを終わらせていただきます。ありがとうございました。